

長崎縣に於ける馬鈴薯の休眠催芽について

浅野 満 夫

長崎縣立農事試験場

休眠と催芽

従来北海道産種薯移入の時期が1~2月の頃で、薯は休眠が完全に終つてゐるから發芽は揃い旺盛な生育を遂げ多收を得たが、近時種薯の質の低下に依り收量が減少しつつある。又之を秋作に供する場合は著しくバイラスに侵される。依て年々北海道より移入せざるを得ない。長崎赤は休眠期が短く種薯は冠部の目が休眠を終り他は容易に發芽しない爲に切斷法を誤る時は不成績に終る事が多い。

本縣に於ける春作馬鈴薯は收穫期が高温多濕の候であり、掘取薯は腐敗が極めて多い。

之等に就いて調査研究を進めてゐるが、豫報として次の成績を擧げる。

第1表 春作薯の收穫期が秋作薯の生育收量に及ぼす影響

春作薯收穫期	發芽期	反當莖重	反當薯個數	反當收量
		貫	個	貫
6月5日	9月28日	23.0	7,000	149.0
6月15日	9月25日	30.5	11,500	420.0
6月25日	9月26日	18.5	5,900	100.0
7月5日	9月29日	9.0	3,400	75.5

備考 秋作播種期は何れも9月9日である。

入梅直前の掘取薯は腐敗する事が殆んどなく、之を秋作種薯に供すると發芽生育共に良好なる成績を收め得る。即ち本縣の如く秋作薯を種薯として移出するし更に海外輸出を豫想せられる處に於ては特に降雨前に收穫することが重要である。

第2表 浴光催芽試験成績 (1)

區別	發芽期	草丈	分枝長	莖重	薯數	上薯歩合
		糶	糶	貫		%
無處理區	10月10日	30.2	1.8	130	17,500	100.0
15日浴光區	10月9日	28.5	1.3	183	14,900	67.2
25日 "	10月7日	32.0	2.0	182	18,100	100.8
30日 "	10月6日	32.6	2.3	200	21,800	114.5

備考 播種期は9月15日である。

第3表 浴光催芽試験成績 (2) (收量)

區別	大薯	中薯	小薯	屑	計	同指數	上薯の歩合
	貫	貫	貫	貫	貫		%
無處理區	21.0	130.0	58.0	14.5	223.5	100.0	100.0
15日浴光區	36.0	108.0	60.0	18.0	222.0	99.2	97.6
25日 "	64.0	166.0	66.0	14.2	296.5	132.6	134.9
30日 "	54.0	179.0	65.0	24.0	322.0	144.1	142.5

浴光催芽は春期に於ては椽先等に擴げて浴光緑化せしめ秋期にあつては半日蔭に於て行ふ。春期の浴光緑化は腐敗、乾燥に依る薯の悪化は極めて少いが、秋期は過乾及腐敗に陥り易い。

第4表 催芽に関する調査 (1)

	發芽期	草丈	分枝數
		糶	
催芽區	9月18日	40.8	2.3
無處理區	9月25日	35.1	1.5

備考 品種は長崎赤。播種期9月3日

第5表 催芽に関する調査 (2) (收量)

	大	中	小	屑	計
	貫	貫	貫	貫	貫
催芽區	268,065	97,290	70,380	14,490	450,225
無處理區	126,000	56,000	54,000	12,000	236,000

第6表 催芽に関する調査 (3) (個數)

	大	中	小	屑	計
催芽區	6,624	5,175	8,280	4,968	25,047
無處理區	3,000	4,800	7,800	6,000	21,600

次に春作薯を6月中旬に收穫せしむるためには此の時期迄に塊莖の肥大生長を最大にせしめねばならない。之がためには、春薯の發芽を促進せしめることが肝要で其の方法として温床催芽、浴光緑化催芽を必要とする。

春薯の催芽 温床框を利用して醸熱材料の厩肥を踏込み床温が恒温になつたとき、床土を3寸の厚さに入れ切斷薯を床面に切口を下向に列べ其の上に床土

と粃殻とを混合したのを1.5寸程度に覆ひ麥稈を覆ひ灌水する。灌水の程度は薯に届くまで行ふ。雨水の侵入を防ぐために雨除けを行ふ。催芽した芽が5分程度になる迄に要する日数は2週間であるから霜害のない時期に芽が出る如く、催芽を開始する。

秋薯の催芽　　秋薯は休眠期間が特に短いので發芽が遅れるために特に催芽の必要がある。秋作薯の播種期が9月初旬の高溫時期であるために、冷床は冷涼で排水良好な場所を選ぶ事が大切であり、當縣に於いては木蔭を選んで設置する。冷床は幅4尺長さ適宜、深さ2寸の床とし床面を平にし切斷薯を並べ土と粃殻と混合したものを覆ひ、稻藁又は麥稈を以て被ひ充分

灌水する

摘　　要

1. 長崎赤は北海道産に比して退化が少ないが之は頂芽強勢を利用するためである。
 2. 梅雨中の收穫は腐敗率多く秋作の種薯として供するとき發芽生育がゆるいから入梅前に掘取る事が必要である。
 3. 入梅直前に收穫するためには、此の時期迄に塊莖の肥大生長を最大に達せしめねばならない。
 4. 之がためには春作に於ては、溫床催芽、浴光綠化の手段を講じ秋作に於いては特に冷床催芽の効果が大きい。
-